



朝のこない夜はない

山首 鈴木正修

いま かんしゃ 今を感謝して生きる

昨年さくねんの重大じゅうたいニュースの中なかでも安倍元総理あべもとそうりの暗殺事件あんざつじけんは皆みなさんも驚愕きょうがくされたことと思おもいます。安倍元総理あべもとそうりが潰瘍かいよう性大腸炎せいたいちやうえんで突然辞任とつぜんじにんされた時とき、小泉元総理こいずみもとそうりが「人生には上り坂のぼりざか、下り坂くだりざか、そして、まさかまさかという坂さかがあります」と言いわれたのを思おもい出だします。7月8日しちがつはつかいのあの事件じけんは本当どうに、まさかまさかでした。また、犯人はんにんが旧統一教会きゅうとういつきやうかいに対すたいる恨みうらみを安倍元総理あべもとそうりにぶつけたということがわかり、これも驚おどろきました。

旧統一教会きゅうとういつきやうかいには「天宙平和連合てんちゆうへいわれんごう」という外郭団体がいかくだんたいがあります。一昨年おとしユーチューブで偶然ぐうぜんその動画どうがを見みたのですが、マザームーンこと韓鶴子ハンハクチャさんを称賛しょうさんするもので、最初にビデオメッセージさいしよを送おくったのがトランプ元大統領もとだいどうりやう領事館りやうじかんでした。続いてビデオメッセージつづに登場とうじやうしたのが安倍元



総理そうりでした。これには本当に驚おどろきました。犯人はんじんもあの動どう画がを見たようです。

どこでどういうことがあるかわからない。本当に人生じんせいには、まさが、という坂さかがあるものです。

人生じんせいの、まさが、いいいますと、事故じこに遭あうとか重い病びよう気きになるということもあると思います。信者しんじやさんの中なかにも「まさが自分じぶんがこんな病びよう気きになるとは」と言いわれる方かたがあります。今いまから30年ねん近ちかく前まえ、東京支院とうきやうしえんの猪原妙政いのはらみよせい法ほう尼にの紹しょう介かいで、東京とうきやうから信者しんじやさんになっなって間まもない方かたが息子むすこさんを連つれて来こられました。話はなを聞ききますと、息子むすこさんはサツカーのJリーガーじーがーでした。その息子むすこさんは20歳さいそこそこでしたが足あしが骨こつ肉にく腫しゅになり、切断せつだんしなければいけないという状じやう況きやうでした。

当時とうじ若わかかった私わたしはかける言葉ことばがなく、ただただ「そうですか。大たい変へんですね。とにかくお題だいもく目とくを唱となえてください」



と言っただけでした。お題目を唱えることを勧めただけでも良かったとは思いますが、今ならこんな話もできたかと思いません。

東京オリンピック、パラリンピックのプレゼンテーションがアルゼンチンのブエノスアイレスで行われた時、佐藤真海さんという方がプレゼンターとして登壇されました。今は結婚されて谷真海さんと言われます。この方は片足がありません。早稲田大学の応援部のチアリーダーとして活躍をしておられた時、足の骨肉腫がわかり、片足を切断されました。その後、絶望を乗り越え水泳をしながらリハビリをして、走り幅跳びでパラリンピックに何度も出て大活躍されました。

結婚をされて男の子を出産した後は、トライアスロンに転向して世界選手権で優勝されています。最近では東京オリンピックの日本代表の旗手を務められました。このような方もおられます。あなたがもし人生に絶望して



も、仏さまは決してあなたに絶望していません。必ず前を向けば、そこに御守護があります。

バリアフリーコンサートという仕事をしている鈴木木ひとみさんという方がいます。現在60歳で、エッセイストとして本を何冊も書いておられ、講演家としても年間にかかなりの数の講演を全国でしておられます。この方の人生が『車椅子の花嫁』というドラマにもなりました。鈴木さんは19歳でミスインターナショナルの日本代表になりました。それからモデルやテレビのアシスタントをされたのですが、22歳の時に撮影の帰りに高速道路で交通事故に遭い、乗っていた車が横転して、鈴木さんは窓を突き破って外に放り出されました。その時に体を強く打ち、救急車で病院に運ばれると、首の骨が折れていることがわかりました。二週間後にお医者さんから言われたのが、「あなたの足はもう動きません。今の医学では



折れた首の骨の矯正はできて、その中を通る神経をつ
ないで治すことまではできません」という絶望的な宣告
でした。それから車椅子の生活になりました。

それまでは堂々と外を歩いていたのですが、それが車
椅子になり、退院してから、周りの人はどう見るだろ
うか。どう言われるだろうかと気になり、なかなか外
に出られなかったそうです。その時のボーイフレンドが
「とにかく外に出ないといけないよ」と言って、車椅子
を押してくれ、鈴木さんは勇気を振り絞って外に出まし
た。その時に自分に何度も何も悪いことをしていない
んだから、堂々と外に出ればいいんだ」と言い聞かせま
した。外に出てみると、自分が思っているほど、周りの
人は自分のことを気にしていないと思ったそうです。
その通りで、多くの人は少し自意識過剰かもしれませんが
そういうことがわかり、だんだん心が楽になり、車椅子
を押してもらって、いろいろな所に行くようになりまし



た。そうすると街は障がい者にとって不便利が多い
ということがわかってきたそうです。

一見平らに見える道路も、舗装の関係でかまぼこ型に
なっていて、慣れていないと傾斜に流されてしまうそう
です。またお店や歩道の段差は、歩いている人にはあま
り気にならなくても、車椅子利用者にとっては大きな障
害に感じたそうです。

自家用車やタクシーには乗れたのですが、バスには乗
れませんでした。電車に乗るときは、大きな駅ではエレ
ベーターがあるのでホームまで行けますが、大抵の駅は
階段なので、駅員さんに頼んで抱え上げてもらわなけれ
ばいけませんでした。減多にないのですが、駅員さんに
よっては嫌な顔をする人もあったそうです。

そのような経験をしながら、世の中のバリアフリー
を進めなければ〴〵と思い、バリアフリーコンサルタント
になったそうです。今ではいろいろな所に行動範囲を広



げ、障しょうがい者しゃに優やさしい世よの中なかになるようにと日夜活動にちやかつどうをしていらつしゃいます。

この方かたも谷たにさんと同おなじように、何なにか人生じんせいに目標もくひょうを〃
ということことでスポーツたいてんをされるようになり、いろいろな
スポーツたいてんを体験たいけんされました。その中なかの一つ、射撃しゃげきではア
テネのparaリンピックでに出でられています。それまで射撃しゃげき
なんてしたこともないのに、練習れんしゅうを重かさね、paraリンピッ
クに出場しゅつじょうするまでになったのです。

鈴木すずきさんがりハビリの一環いっかんとしてプールかよに通かようようにな
った時ときのことです。そのプールしんたいしゅうは身体障しんたいしゅうがい者しゃスポー
ツセンターの中なかにあり、いろいろな障しょうがいを持つた人ひとが
来ていました。

ある日ひ、鈴木すずきさんは目めの不自ふじゆう由ゆうな人ひとが耳みみの不自ふじゆう由ゆうな人ひと
に時間じかんを尋たずねている光景こうけいを目めにしました。尋たずねられた耳みみ
の不自ふじゆう由ゆうな人ひとは話はなすことができず、目めの不自ふじゆう由ゆうな人ひとにど
うやって時間じかんを伝つたえようかと、とてもあたふたしていま



した。何かサポートできればと、鈴木さんは二人のところにへ行きました。

そこで、鈴木さんは目の不自由な人が耳の不自由な人に時間を聞いて、そこに車椅子の自分が駆けつけるといふ様子を思い浮かべながら、こんな偶然もあるんだなあ、と考えていたら、だんだんおかしくなってきて、笑っちゃいけない、と思いつつも声に出して笑ってしまったのです。

すると二人も一緒に「あはは」と笑ってくれたのです。この時、鈴木さんは二人が笑えるほどの気持ちの柔軟さと、広い心を持っていることに驚き、感激したそうです。前を向いて頑張るといふことは大事なことです。足がなかるうが、障がいがあるうが、頑張ることは大事ですが、そこに心の柔軟さ、ユーモア精神が加われば最高だと思えます。



余談ですが、先代日達上人もおもしろいことをよく言
つておられました。

昔、駒方寮の子どもが米軍の倉庫に忍び込んで、何か
を盗ってきたことがあったそうです。その時に「なんで
そんなことをするんだ」と聞くと、子どもは「向こうが
『プリーズ（どうぞ）』と言ったのです」と言いました。
『プリーズ（動くな）』を聞き間違えたという話です。
日達上人はそんな話をよくされていました。

以前、NHKで目の不自由な方の施設・ライトハウスの
特集をしていました。ライトハウスにその時、目が不
自由になって間もない若い男性が入ってきました。ライ
トハウスにいる他の若い人達が、その男性を励ますため
にちよっとした会を催しました。その時にその男性に
「何が一番不自由？」と聞くと、「いろいろなことが不
自由だけれども、一番つらいのが大好きな人の顔が見え



なくなりましたこと」だということです。大好きな人の顔が見えなくなるのは確かにつらいことです。それを聞いていた女性が、「それはそうだよ。大好きな人の顔が見えないのは寂しいよね。でもね、触ってしまえばいいのよ。目が見えている時はいきなり触ると驚かれたけど、今はいきなり触ってしまえばいいのよ」と言ったのです。

「おもしろいことを言うなあ」と思ったのですが、他にもいろんなユーモアを交えた会話がありました。かのヴィクトール・フランクルが言った「ユーモアは魂の武器である」という言葉が浮かんできました。

昨年末に白駒妃登美さんの講演会に招待を受け、行ってきました。愛知県西尾市の郷土の偉人で、台湾で活躍をされた方を顕彰する記念講演でした。白駒さんは台湾と日本の友好の話をされました。白駒さんは博多の歴史として有名な方です。歴史とは歴史に詳しい歴史好きの



女性じよせいということことです。この方かたは子どもこの頃ころから歴史れきしが大だい好きすで、とくに福沢諭吉ふくざわゆきちが大だい好きすだったそうそうです。福沢諭吉ふくざわゆきちが好すきすぎすぎて慶応大学けいおうだいがくに入い学がくされたそうそうです。慶応大学けいおうだいがくを卒業そつぎょうしてから日本航空にほんこうくうのキャビンアテンダントかきんあてんだんとになりました。キャリアかきアを重かさねて総理大臣そうりだいじんの乗のる政府専用せいふせんよう機きのキャビンアテンダントかきんあてんだんとにもなりました。それから結けつ婚こんして引退いんたいをされ、男おとこの子こが生まうれました。順風満帆じゆんぷうまんぱんの人生じんせいだったのですが、ある日ひ、定期健診ていきけんしんで子宮頸がんしきゅうけいがんが見つみつかりました。早期そうきといういうことことで手術しゆじゆをされたのです。2010年ねんの夏なつに定期健診ていきけんしんで肺はいに転移てんいしていることことがわかりました。その時ときにお医者さんいしやから「正直しょうじきに申もうし上げあますね。この状態じょうたいで助たすかった人ひとを、今いままで私わたしは見たことことがありません」と言いわれました。お医者さんいしやからそんなふうふうに言いわれたら絶望ぜつぼうしてしままいます。当然とうぜんですが目の前めが真まっ暗くらになり、幼おとない息子むすこさんの寝顔ねがおを見ては、毎晩まいばん泣ないたそうそうです。



そんな時、ある出版社から電話がありました。白駒さんはずっと歴史ブログをされていて、そのブログを本にしませんかと出版社が言ってきたのです。その時に白駒さんは、本なんか書いている場合じゃないとも思ってたのですが、本を出して今まで生きてきた証にしよう。そして子ども達への遺言にしようと思いい直し、それから改めて日本の歴史を紐解いて、一生懸命勉強をされました。その中で同じように病気で苦しんだ正岡子規から大きな勇気をもたらったそうです。「柿食えば鐘が鳴るなり 法隆寺」で有名な正岡子規です。

子規は、明治時代の文学者で武家に生まれました。そのことに大変誇りを持っていました。また、武士道に憧れを持っていて、武士道における覚悟とは何だろうとずっと考えていました。自分自身で出した結論が、武士道の覚悟とは、いついかなる時でも平然と死ぬること



されました。

すると、毎晩、ぐっすり眠れるようになり、なんと肺
にできたがんが消えてしまったのです。今では非常に健
康で、ご自分の気づきと先人達の志を伝えるために年間
200回以上、講演活動をされています。

白駒さんは言われます。

「過去や未来を手放しましょう。生かされている今に感
謝して一生懸命生きましょう」

人間は、どんな状態になっても生かされている今に感
謝して一生懸命に前を向いて生きる。生き切る。これが
大事です。そこに少しのユーモアが加われれば言うことな
しです。

